

村内での再開にかける―飲食店の挑戦

伝統60年の味もう一度、村で

高橋 善治さん
ちよ子さん
飯樋町



仮設住宅などに避難している村民の方が「食べたくなったよ」と言つて足を運んで来てくれます。「美味しかった」と言ってもらえるのが何より嬉しいです。

最近では、双葉町や富岡町など浜通りからのお客さん、宮城県や山形県など県外からの常連客も増えてきています。

震災後からは、息子も店に立つようになり親子で店の味を守っています。

そして何人の村民が戻るのか分からない状況ですが、村に戻つて再開したいと考えています。そのためには、店舗設は問題ないが、住んでいた家屋の修繕が必要になってきます。

村内企業が再開し、これから役場が戻つた後に食事ができる場所がないのも寂しいでしょう。以前のように、皆が集まれる場所にしていきたいです。そしていつか、お祭りが再開する時にぎやかにしたいですね。



「変わらない味にホッとすると」言つて足を運んでくれる村民の方との交流を大切にしながら営業を続けています。

また、新聞、ラジオでの宣伝、インターネットのクチコミサイトなどで紹介されるようになり、多くの人に食べてもらつて最高です。

今では、震災後からお店に来てくれるようになった常連さんの好みも分かるようになりました。

帰村後が本番。村内再開に向けて、人を集めることを考えています。事業者同士が協力し合い、お客さんを呼び込んでいきたいです。

復興には課題が山積みですが、「だめ、だめ」ばかりでは進まない。いろいろなアイデアを集めて、いずれは雇用創出できればと考えています。

時間はかかるかもしれませんが、楽しんでいきたいです。諦めるんじゃない、はじめていきます。

「最高」な村のために「最高」な店を

赤石 澤 榮さん
敏子さん
白石



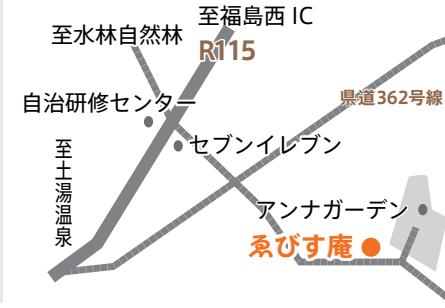
名物 琥珀ラーメン
中華 琥珀

住 福島市松川町金沢地藏田1-1
(松川第一仮設住宅地内)
☎ 024-567-5657
営 午前11:00～午後5:00
休 月曜日



創業 昭和28年
手打ちうどん あびす庵

住 福島市荒井字横塚 3-179
☎ 024-563-7605
営 午前 11:00～午後 3:00
※営業時間以降は要予約
休 火曜日



村内インフラ整備は村復興の重要課題のひとつです。村民の皆さんからも村内での飲食店再開を望む声が聞かれます。さまざまな課題・難題は多くとも、村内再開を目指す2つの飲食店の想いをご紹介します。

現在は、村外で営業を続ける2店。村民同士のつながりを大切につむぐように、店内には震災前と変わらぬ味を楽しみ、お客さんの姿が見られます。

飲食業なのでお客さんが第一。ただ、そこには震災前の村にあった、お客さんとお店の人の立場を超えた大切な関係が垣間見られます。

目には見えない大切な「つながり」、心の拠り所となる「場所」をもう一度、村に作ることに復興への大きな歩みとなることでしょう。

わが故郷、飯館村で懐かしい味を、懐かしい顔ぶれで食する日を待ちわびながら。

村内再開事業に向けた

支援事業について



経済産業省派遣職員
村商工労政担当
廣戸 貴義さん

事業者の皆さんにとって事業再開における一番の問題点は、どれだけの村民が戻られるのか把握できない中で、「本当に商売として成り立つのか？」という事業性の問題だと考えます。

その事業リスクを最小限に抑えながら、最大限に活動を行つていただけるような場や環境を提供するのが村の役割だと思います。

たくさんの方の事業者の皆さんに元気で明るく「まideaな心」で商売をしていただき、結果として村民の生活利便性向上に寄与するだけではなく、他の地域からも人を呼び込めるような、いつかは避難前よりも賑わいある飯館村になることを夢見て全力で取り組みます。